

令和2年産

# 大崎稲作情報 第4号

令和2年7月14日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

## 今後の管理のポイント

- ✓ 稲の生育量を判断して追肥を行いましょう
- ✓ 間断かん水を行いましょう
- ✓ いもち病や斑点米カメムシ類防除に努めましょう

## 1. 気象経過

6月4半旬までは高温・多照・少雨の乾燥傾向となりました。その後は最高・最低気温ともに平年並となり、日照不足・降雨が続いております。

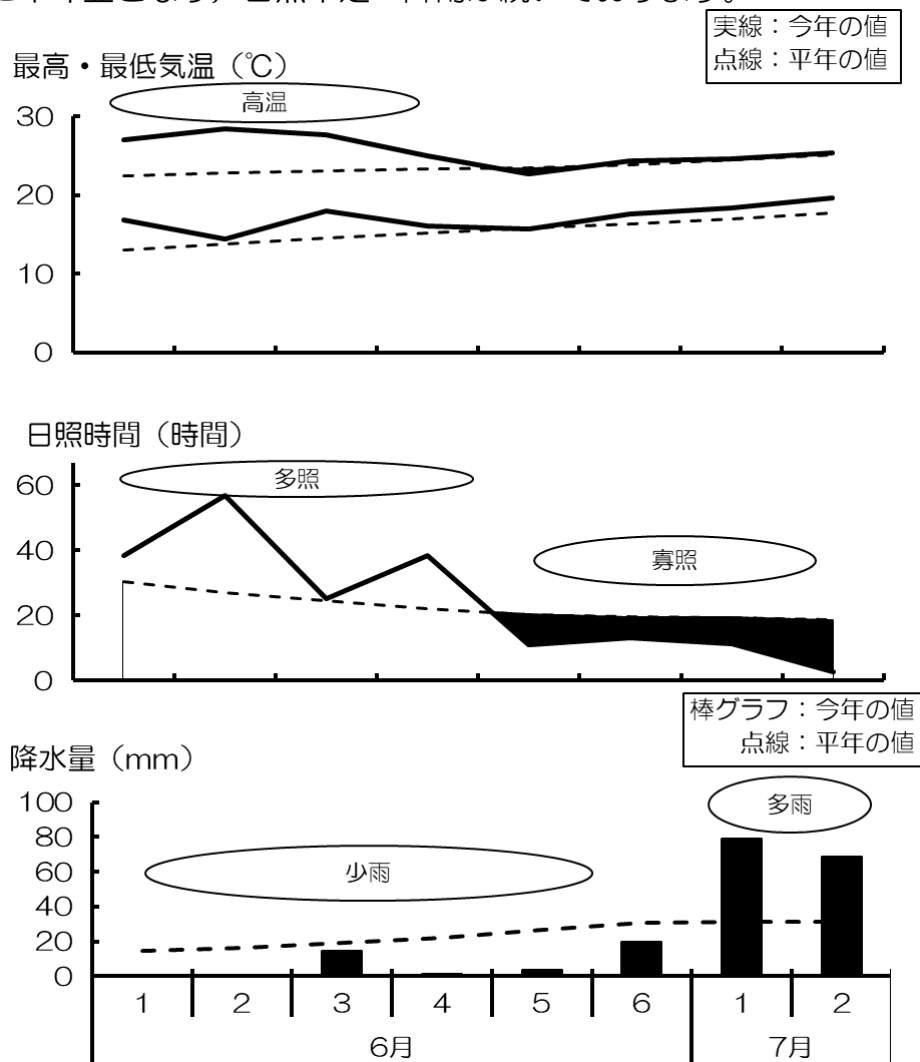


図1 6・7月の気象 (古川アメダス)

## 2. 生育概況（7月10日現在）

生育は順調に進んでおり、草丈と茎数は平年並～やや上回りました。5月上旬に田植えしたほ場では12葉が展開しています。葉色は40を下回るほ場があり、やや淡くなりました。幼穂長が1.0mm以上確認された地点は4地点あり、幼穂長は平年並～やや上回りました。

表1 生育調査結果

品種名	地区名	田植・播種月日	草丈(cm) (平年比)	茎数(本/m) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)
ひとめぼれ	大崎市三本木	5月4日	69.3 (112%)	541 (103%)	10.5 (-0.1)	43.3 (+3.7)	3.4 (+0.8)
ひとめぼれ	加美町小野田	5月17日	62.9 (107%)	553 (101%)	9.6 (-1.2)	43.5 (+0.3)	1.7 (+0.5)
ササニシキ	大崎市古川	5月11日	71.3 (114%)	666 (105%)	12.1 (+1.3)	43.1 (+3.7)	0.8 (-0.3)
つや姫	色麻町四竈	5月4日	63.6 (-)	574 (-)	10.5 (-)	42.6 (-)	0.3 (-)
だて正夢	大崎市三本木	5月3日	64.4 (-)	382 (-)	11.4 (-)	38.0 (-)	4.8 (-)
金のいぶき	大崎市三本木	5月7日	65.0 (-)	564 (-)	12.1 (-)	34.9 (-)	0.4 (-)
まなむすめ	加美町宮崎	5月18日	61.7 (103%)	552 (103%)	10.9 (+0.4)	39.5 (+1.2)	1.5 (-0.1)
ゆきむすび	大崎市鳴子温泉	5月24日	54.2 (-)	362 (-)	9.4 (-)	44.5 (-)	0.0 (-)
みやこがねもち	大崎市岩出山	5月18日	58.7 (102%)	607 (112%)	10.6 (-0.5)	38.0 (+1.6)	0.0 (-0.1)
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月4日	55.4 (-)	455 (-)	8.8 (-)	38.3 (-)	0.0 (-)
県全体			62.7 (105%)	539 (96%)	10.8 (+0.0)	41.1 (+1.6)	1.8 (-1.0)

※平年比・差は前5か年（平成27年～令和元年）の平均値との比較  
 県全体はひとめぼれ、ササニシキの生育調査ほ31地点の平均値

## 3. 出穂予想 出穂期は8/2頃の見込み

宮城県米づくり推進本部より、県内の出穂予想が発表されました。

今後の天候が平年並みであると仮定すると、県内の中生品種の出穂期は8月2日頃（平年日8月2日）との見込みです。

今後の天候により、生育ステージが予測値から変動することがありますので、ほ場の幼穂長を確認し、随時生育ステージを把握することに努めましょう。

表2 地帯区別の生育ステージの予測

地帯区分	田植時期	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期
	始期～終期	始期～終期	始期～終期	始期～終期
北部平坦	5/2～5/19	7/2～7/11	7/12～7/21	7/31～8/7
西部丘陵	5/7～5/26	7/5～7/16	7/15～7/26	8/3～8/12
山間高冷	5/7～5/27	7/13～7/21	7/23～7/31	8/12～8/19

※1 7/3までアメダスデータ実測値を使用，7/4以降はアメダス平年値を使用

※2 対象品種は「ひとめぼれ」「ササニシキ」「やまのしずく(山間高冷)」

## 4. 今後の管理

### 1) 追肥 **追肥は生育量を判断して施用**

生育量が不足している（葉色が薄い、莖数不足等）場合には、追肥が求められますが、過剰な追肥は倒伏や病害虫の誘発へとつながります。追肥をする際は、生育量（葉色の濃さ、倒伏診断指標等）を判断して行いましょう。

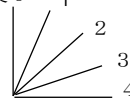
表3 「ひとめぼれ」「ササニシキ」の倒伏診断指標

幼穂形成期(草丈×㎡莖数×葉色; 10 <sup>5</sup> )							減数分裂期(草丈×㎡莖数×葉色; 10 <sup>5</sup> )														
莖数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計値(SPAD502型)					倒伏 危険域	I	II	III	莖数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計値(SPAD502型)				倒伏 危険域	I	II	III	
		38	40	42	44	46							48	34	36	38					40
600	50	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4				550	60	11.2	11.9	12.5	13.2	13.9	14.5			
600	55	12.5	13.2	13.9	14.5	15.2	15.8				550	65	12.2	12.9	13.6	14.3	15.0	15.7			
600	60	13.7	14.4	15.1	15.8	16.6	17.3	倒伏			550	70	13.1	13.9	14.6	15.4	16.2	16.9	倒伏		
600	65	14.8	15.6	16.4	17.2	17.9	18.7	危険域			550	75	14.0	14.9	15.7	16.5	17.3	18.2		I	
600	70	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2				550	80	15.0	15.8	16.7	17.6	18.5	19.4		II	
600	75	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6				550	85	15.9	16.8	17.8	18.7	19.6	20.6		III	
600	80	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0				550	90	16.8	17.8	18.8	19.8	20.8	21.8		III	
700	50	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8				600	60	12.2	13.0	13.7	14.4	15.1	15.8			
700	55	14.6	15.4	16.2	16.9	17.7	18.5				600	65	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2		I	
700	60	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2		I		600	70	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5			
700	65	17.3	18.2	19.1	20.0	20.9	21.8		II		600	75	15.3	16.2	17.1	18.0	18.9	19.8		II	
700	70	18.6	19.6	20.6	21.6	22.5	23.5				600	80	16.3	17.3	18.2	19.2	20.2	21.1		III	
700	75	20.0	21.0	22.1	23.1	24.2	25.2		III		600	85	17.3	18.4	19.4	20.4	21.4	22.4		III	
700	80	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9				600	90	18.4	19.4	20.5	21.6	22.7	23.8		III	
800	50	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2		I		650	60	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2		I	
800	55	16.7	17.6	18.5	19.4	20.2	21.1		II		650	65	14.4	15.2	16.1	16.9	17.7	18.6			
800	60	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0				650	70	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0		II	
800	65	19.8	20.8	21.8	22.9	23.9	25.0				650	75	16.6	17.6	18.5	19.5	20.5	21.5			
800	70	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9		III		650	80	17.7	18.7	19.8	20.8	21.8	22.9		III	
800	75	22.8	24.0	25.2	26.4	27.6	28.8				650	85	18.8	19.9	21.0	22.1	23.2	24.3		III	
800	80	24.3	25.6	26.9	28.2	29.4	30.7				650	90	19.9	21.1	22.2	23.4	24.6	25.7		III	
900	50	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6		II		700	60	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5		I	
900	55	18.8	19.8	20.8	21.8	22.8	23.8				700	65	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0		II	
900	60	20.5	21.6	22.7	23.8	24.8	25.9		III		700	70	16.7	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6			
900	65	22.2	23.4	24.6	25.7	26.9	28.1				700	75	17.9	18.9	20.0	21.0	22.1	23.1		III	
900	70	23.9	25.2	26.5	27.7	29.0	30.2				700	80	19.0	20.2	21.3	22.4	23.5	24.6			

倒伏危険域

- I 倒伏度2を超える確率5~20%
- II 倒伏度2を超える確率20~50%
- III 倒伏度2を超える確率50%以上

倒伏度0



※ 倒伏診断指標は、「草丈×㎡あたり莖数×葉緑素計値÷100,000」により算出。

### 2) 水管理 **幼穂の発育には水の吸収が不可欠**

- ✓ 幼穂形成期に達したほ場は間断かん水を行いましょう。特に、減数分裂期～出穂期前後は水の吸収量が最も多い時期となります。この時期に水分が不足した場合、幼穂の発育や開花受精が妨げられる恐れがあります。そのため、低温時を除いて十分に酸素と水を供給しましょう。
- ✓ 低温時（日平均気温 20℃以下が長期間続く、または最低気温 17℃以下）の際は障害不稔が発生する恐れがありますので、深水管理としましょう。

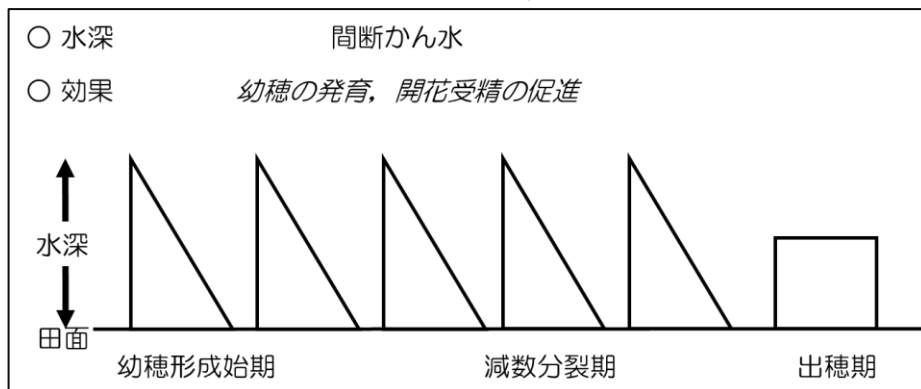


図2 今後の水管理

### 3) 病害虫防除 **出穂予想に基づいて適期に実施**

- ✓ いもち病は、ほ場を入念に見回り早期発見・早期防除に努めましょう。BLASTAM による葉いもち感染好適条件の推定結果として、古川アメダスが 3日連続(7/7~9)の好適条件を示しました。
- ✓ 紋枯病は、前年に多発したほ場では防除を徹底しましょう。
- ✓ 稲こうじ病は、窒素過多で発生が助長されるので追肥の際は注意しましょう。
- ✓ 発生予察情報(7/10発行)にて、巡回調査(6/30~7/3)の斑点米カメムシ類のすくい取り虫数が、直近5か年と比較して高い値となっております。今後の発生に注意しましょう。

イヌホタルイやノビエが残草したほ場では、1回目の殺虫剤散布を出穂始期~穂ぞろい期に早めましょう。

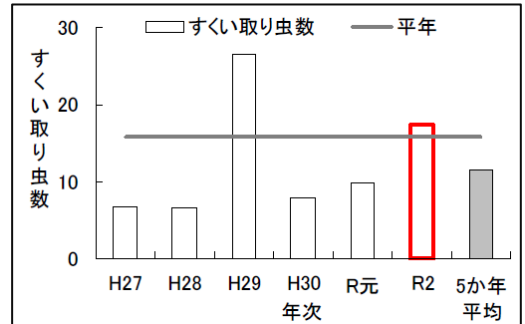


図3 水田周辺の畦畔、牧草地及び雑草地におけるすくい取り虫数

表4 主な病害虫の防除方法、防除時期の目安

病害虫	防除方法	防除時期の目安	30日前	20日前	15日前	10日前	5日前	出穂期	穂ぞろい期	穂ぞろい期 10日後	
いもち病	葉いもち	茎葉散布剤 発生が確認されたら直ちに散布	防除時期								
	穂いもち	水面施用剤 出穂30~5日前まで	防除時期								
紋枯病	茎葉散布剤	穂ばらみ期~出穂期			防除時期						
	水面施用剤	穂ばらみ期		防除時期							
稲こうじ病	水面施用剤	出穂20~10日前まで		防除時期							
斑点米カメムシ類	畦畔の草刈り	出穂期10日前まで	草刈り時期								
	殺虫剤×2	穂ぞろい期とその7~10日後							1回目	2回目	

#### 東北地方 1 か月予報

(7月11日から8月10日までの天候見通し)

仙台管区气象台 発表※抜粋

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	30	30	40
【降水量】	東北太平洋側	20	40	40
【日照時間】	東北太平洋側	40	40	20

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	40	40	20
2 週 目	東北地方	20	50	30
3~4週目	東北地方	20	40	40

#### ◆◆◆◆◆ 農薬危害防止運動実施中(6月1日~8月31日) ◆◆◆◆◆

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名等ラベルなどで確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って適正に使用しましょう。

※ 最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターホームページで確認できます。

HP<<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>>